令和６年度中国地区私立幼稚園教育研修会岡山大会分科会報告

<table>
<tr><td colspan="3">第 ２ 分科会</td><td>研修俯瞰図番号 ： Ｅ２</td></tr>
<tr><td>テーマ</td><td colspan="3">造形遊び　「素材と かろやかに あそびとける」</td></tr>
<tr><td>講師</td><td>金山　和彦 先生 （ 東京家政大学教授 ）</td><td>会場</td><td>ホテルグランヴィア岡山
３階　『パール』</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td colspan="3">今回の主題である非認知能力という言葉。難しいですね。
それは知識・判断力という理性的な能力ではなく、親和性、思いやりのバランス感覚、言語を使わなくとも分かり合える感性などを指します。これらの力には、心理的安全性を基とした自己有能感があります。自分の存在が認められる。これ以上幸せなことはありません。造形だって、音楽だって「もういっかいしたいっ！」という気持ちになります。この講座での活動を通して、心の底から自分と他者を受け入れることを学びましょう。非認知能力のはじめの一歩です。そして、造形指導と造形あそびの違いを今一度、かんがえてみましょう。あそびの本質追求こそ、本テーマの答えです。
私たち保育者がよく使う「あそびこむ」という言葉。私は、心が少し辛くなる感じがします。みんなが「こむこと」を目指すべきなのでしょうか。今回の研修では、あそびとけるという言葉の提案をさせてください。　（金山先生からのねらい額面通り）</td></tr>
<tr><td>日程</td><td colspan="3">9:00　第１部：スライドショーとリラックス
・造形入門(画用紙、絵の具とクレヨン)
・現代美術と幼児のあそび　～素朴な表現～
・シマウマとヌー
9:30　・モクヘンサンとあそぶ（制作～共同制作）

第２部：あそびとアート、無意味と自分
・シールアート、大村雪乃氏の絵画に挑戦　～みなさんはバンクシー(Banksy)に近づくことができるか～

10:20 第３部：非認知の意味の意味の意味
・ふんわりパイプでつくってみよう（共同制作・発表）

10:50 休 憩

11:00 ・どんぐり風船でバトルです！（共同制作）
11:30 ・描く、破く、ちぎる、包む　（共同制作）
・ツツムあそび　（共同制作・発表）
・スヌーズレン(Snoezelen ふわふわアート・タイム)～ツツム遊び

第４部：まとめ　リフレクション

12:00 ・分科会終了</td></tr>
</table>

≪内容≫

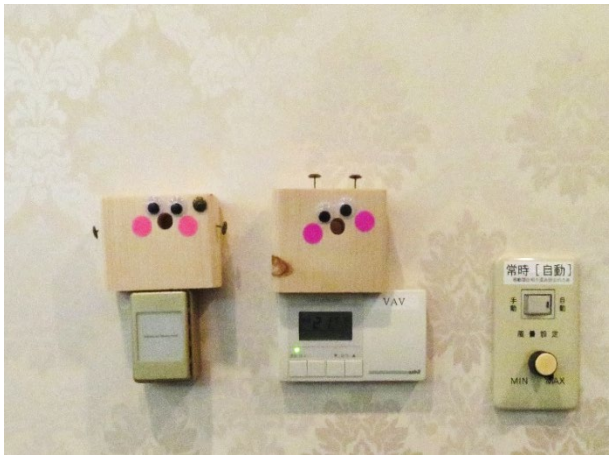
第１部：スライドショーとリラックス

・スライドを見ながら、金山先生のお話を聞きました。

子どもの表現について、非認知能力について、アクリル絵の具についてなど教えて頂きました。

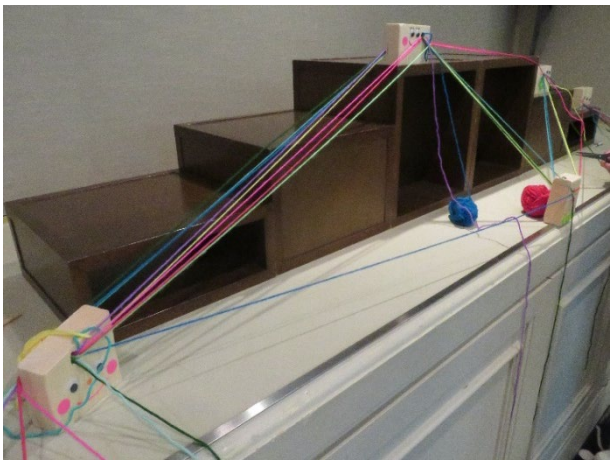
・モクヘンサンとあそぶ

① 穴の開いた木片に目玉シールやペン、釘などを使いながら制作。（個人）



② 出来上がった木片を各自好きなところに貼る。

③ 複数の木片の穴に毛糸を通し、繋げていく。（共同）



第２部：あそびとアート、無意味と自分

・シールアート、大村雪乃氏の絵画に挑戦

① 丸シールで作品を作る。

② 作った作品をシュレッダーに掛ける。

③ バラバラになった作品を組み合わせて、再度作品を作る。

第３部：非認知の意味の意味の意味

・ふんわりパイプでつくってみよう

① 各グループで、ふんわりパイプを最大２０本使用して何かに変身するパターンを２つ話し合う。

② 「１・２・３」の合図に合わせて変身を披露。テーマを発表。

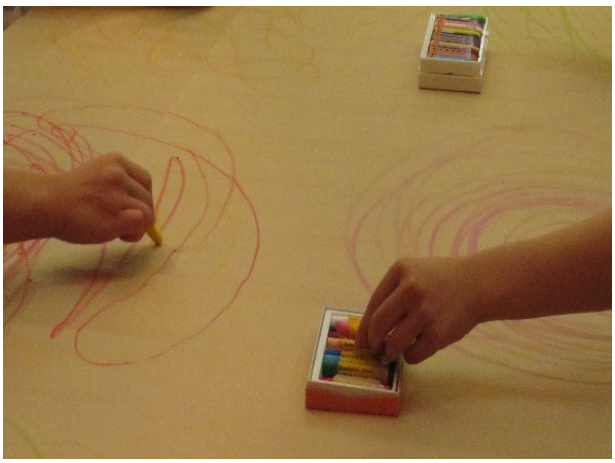
・どんぐり風船でバトルです！

① 紙皿（お椀型）２つを貼り合わせる。風船を膨らませる。

② グループで高く積み上げたり、アーチを作ったりする。

・描く、破く、ちぎる、包む

① 大判の紙にパスで自由に殴り書きをする。



② ビリビリに破る。

・ツツムあそび

① 大判の紙を使って、グループごとに何かを包む。(椅子、人間、マイクスタンドなど…)

② 各グループごとに発表。

≪まとめ≫

金山先生の話

本研修会では、外界に向かって表したり、他者に伝えたり、作品や自分自身と対話することで、多様な感性のチャンネルが生まれました。そのような意味では、これまでのように、次々につくり込む表現とは、今いる空間の中で後世に置いていく物質を量産することでしかないことに私も気づきました。皆さんはどうですか。

ここが、造形における認知と非認知の要点です。

先日、あちらにある木片をこちらに持ってきて、いっぱいになったらまた戻す幼児の様子をみました。この子どもの繰り返しのあそびの中にも、「この後、違う遊びに飛び移ろう」と狙っているもう一つの強い電波みたいなものがしっかりと見え隠れしていました。

遊んでいる自分以外の、もう一人の分身(あそぶ・ちから)がいろんなところに旅をしながら、派遣先からオモシロさを持って帰ることは、演じる楽しさそのものであると思います。私たちは保育者として、つくることの流れを一度止めてみて、そこにあるものやことの本当(？)の文脈を感じ取れるようになりたいですね。表現のゼロポイントなるものをみていきましょう。

本研修を通して、金山先生は「つかんだら　はなせ！」「かろやかに！」と、何度も仰り、私たち保育者は、ともすると“作りこむこと”を無意識のうちに行いがちであることに気付かされました。机上での制作にとどまらず、会場全体を使って制作やグループワークなど、様々な表現活動が行われ、素朴な表現の楽しさを学びました。金山先生の軽妙な語り口に引き込まれるように「あそびとける」楽しさを感じることが出来たように思います。

≪担当園≫　あけぼの幼稚園　　中川　京子・木並　佳奈